

塚谷研究室 キーワードは葉の形態形成 そして多様性

発生進化研究室

植物の葉はいかにして

これほどまでに多様化したか

その基本メカニズムの解明と多様化の追求

私たちは<葉の形態形成>をキーワードとして、<植物>の理解を目指している。その戦略は大きく2通り。シロイヌナズナをモデル植物とした、正統的な発生分子遺伝学による解析と、さまざま多様な形態を持つ他の植物種の、それぞれ特徴的な形態形成を解析対象とするエポデボ的解析である。

研究室構成：

塚谷 裕一(教授)、古賀 皓之(助教)、中山 北斗(助教)

修士課程院生3名、博士課程院生1名、ポスドク1名

(出身大学： 東大、国際基督教大、筑波大、中部大、北大、東北大、

千葉大、東京学芸大、首都大、Univ. Prince Edward Island、

University of Manchester、浙江大学)

Publication (2022年)： 原著 11報、総説2本、専門書 1

OB/OG就職先：

立教大学

教授

東京学芸大学

准教授

埼玉大学

准教授

金沢大学

特任准教授

日本学術振興会

主任

UC Berkeley

ポスドク ほか

研究室を知るサイト：

SEKAI 04: <http://toshin-sekai.com/interview/04/>

知の現場から <http://www.chuko.co.jp/shinsho/portal/101812.html>

塚谷裕一『変わる植物学、広がる植物学』(東京大学出版会、2006年)

URL:

<https://www.bs.s.u-tokyo.ac.jp/~bionev2/>

立教大学

堀口 吾朗(教授)

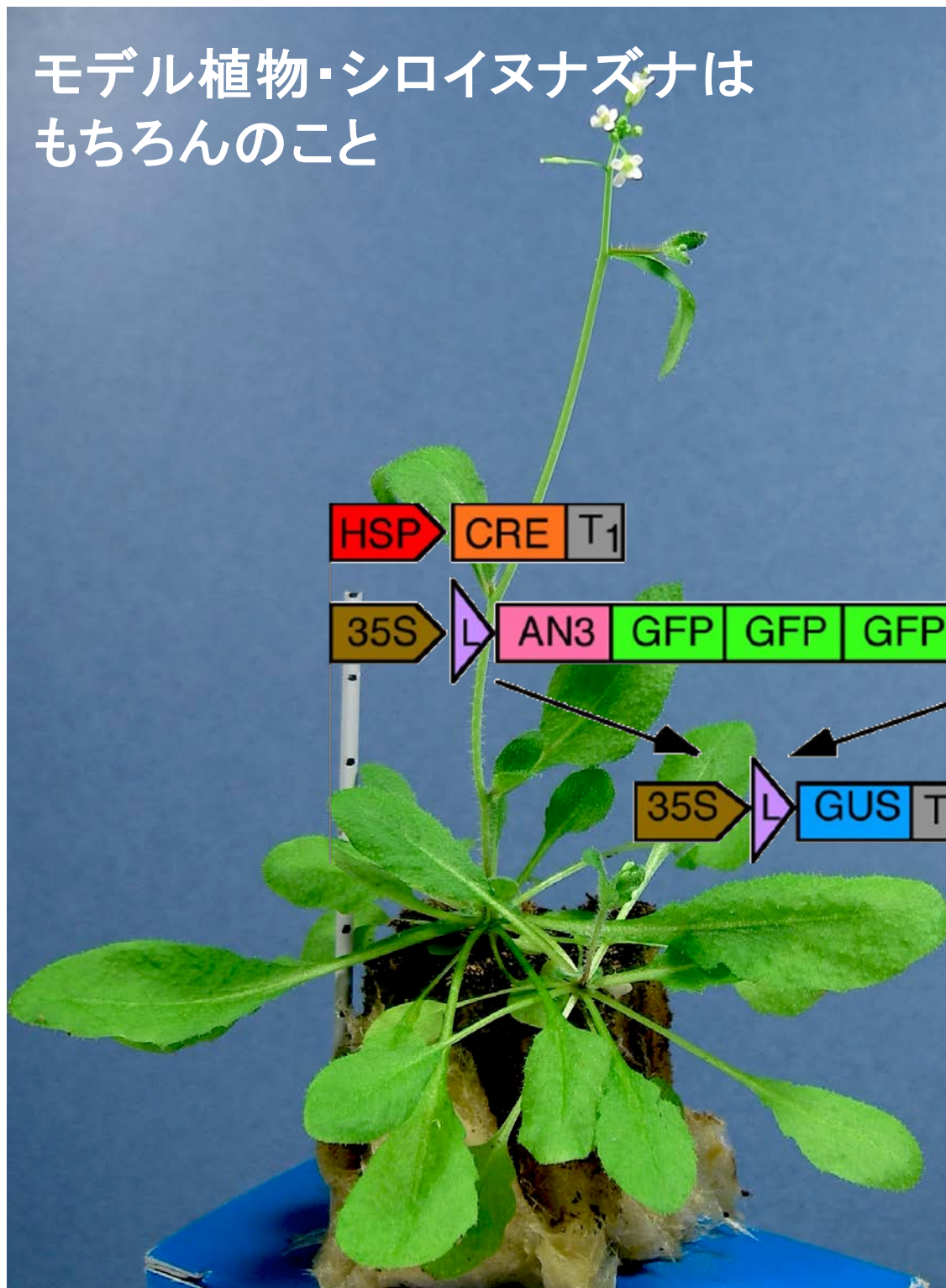
東京学芸大学

Ferjani Ali(准教授)

と緊密な共同研究関係を結んでいる。

モデル植物・シロイヌナズナは
もちろんのこと

塚谷研 多様な実験材料
と人々



塚谷研 多様な実験材料 と人々



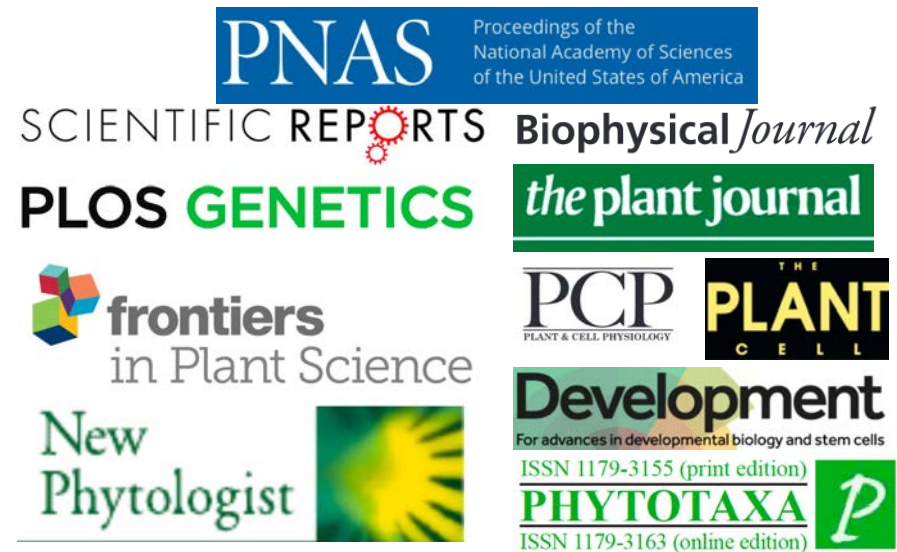
塚谷研 多様な実験材料 と人々



苔類
ゼニゴケ

塚谷研 多様な実験材料 と人々

手法もいろいろ。
発生遺伝学 (突然変異体) / 分子遺伝学 (RNAseq)
イメージング (Micro CT、共焦点LSM) / 数理...



東京学芸大・Ferjani研究室、立教大・堀口研究室、立教大・榊原研究室ほかと緊密な交流